



新型コロナウイルス感染と検査

検査部部長 康 東天

この御時世ですので新型コロナウイルス感染について少し。一時期急増していた福岡県のコロナ新規確定感染症者数がこの10日間(5月3日ー5月12日執筆時点)で8人と、1日あたり1人程度で相当に落ち着いている状況となっています。ご存知のように症状がないあるいは少ない感染者が8割と言われているので、検査を受けていない人が相当多く、実数は少なくともその数倍はいると考えられており、再増加を防ぐためにはまだまだ当分はsocial distancingへの留意が必要でしょう(発行時点では解除されていれば良いのです)。実際、制限緩和を始めた外国では既に再増加が問題になり始めています。

感染症の流行の判断には感染者数のできるだけ正確な把握が必要なのは言うまでもなく、日本においては世界的に見てPCR検査数の少なさが最近とみに強く指摘されるようになっていきます。マスコミではいろいろな要因が挙げられていますが、検査を大幅に拡大するためにはPCR検査の自動化が欠かせず、検査者の安全にとっても非常に有利です。

臨床検査の自動化は常に臨床検査の進歩と共にあり、それを専門にする学会まであるほどです。比較的遅れていたと言われる感染症検査領域でも近年PCR検査法の進歩で急速に自動化が進んでいます。PCRは目的微生物の遺伝子を増幅して検出するもので、その原理は単純ですべての微生物の検査に共通して適用できるので、特定の微生物遺伝子の増幅に適した領域を特定し増幅のためのプライマーを決定出来れば、検査部既存の自動PCR機器(写真)で検査できます。九州大学病院においても検査機器や人員は何とかやり繰りできるようになっていますが、自動化機器に対応する試薬の供給が非常に制限された状態(確保の競争状態)で、検査の拡大に十分に対応できていない状況です。九州大学病院検査部の自動機器に対応した試薬も増産されていくでしょうが、今後見込まれる検査需要の拡大に対応できるほどの増産が整うのを期待するばかりです。



流行後間もなくPCR試薬が素早く世界各国で開発されるようになったのも、新型コロナウイルスの分離とゲノム配列の決定が迅速に出来るようになったからで、臨床検査も全般的な医学生物学の学問の進歩に無縁ではありません。九州大学病院検査部もそのような学問の進歩に貢献できる検査部でありたいと努力しています。



《今号の紙面》

検査部部長よりあいさつ	……p.1
鉄分検査室	……p.2
検査部新人紹介	……p.3
検査部からのお知らせ、編集後記	……p.4

鉄分検査室 第54回 《コロナ禍》

白いかもめ

平成21年(2009)7月21日博多から部分開業していた九州新幹線、高速フェリーと乗り継ぎ好天の錦江湾の景色を眺め種子島に上陸した。翌22日種子島南端の門倉崎へ向かった。皆既日食を見物するためである。皆既食帯の北限が種子島の南端を通過して皆既食帯内に入る門倉崎に立った。しかし前日と違って変わって梅雨前線の分厚い雲が種子島上空を覆い皆既日食を見物することはできなかった。それでも皆既食の時間帯には新聞の文字がころうして読めるか読めないくらいの暗さを体験できた。翌日の帰路は再び好天であった。皆既日食のときにしか見ることのできないコロナを見られず残念であった。



博多駅ビジョン

ところで今年は年初から別の歓迎すべからざるコロナの登場となった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

福岡県では、新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言が4月7日から5月14日まで発令され、密閉、密集、密接のいわゆる3密を控えるための様々な自粛要請が行われた。発令解除後も新型コロナウイルスが完全に消えたわけではなく感染増加の第2波、第3波の可能性もあり3密の注意は怠れない状況である。



高架駅開業日の
新長崎駅の白いかもめ

鉄道はまさに密閉、密集、密接の3密の環境になりやすく、特に通勤・通学のラッシュ時の列車はそうである。その3密を減らすため早期より時差出勤やテレワークが呼びかけられ、乗客・乗務員のマスク着用が呼び掛けられた。また窓が開閉できる車両では換気を良くするため窓は開放された。

例年であればゴールデン・ウィークは多くの人々が遠出をする時期であり、遠出による新型コロナウイルスの全国拡散が懸念され、鉄道各社は様々な対策を行った。



福岡市地下鉄「マスク&ライド」ポスター
天神駅西改札口

JR九州は5月2日から5月6日までの期間、在来線特急の全便運休という前代未聞の対策を行った。

西日本鉄道では4月18日土曜日から5月10日日曜日まで土・日・祝日に特別減便ダイヤで運行し、特急を全便運休した。これもまた前代未聞の対策である。

緊急事態宣言解除後も5月末現在JR九州ではハウステンボス号全便運休やかもめ号やみどり号の間引き運転を継続している。

福岡市地下鉄では「マスク&ライドキャンペーン」を実施中である。

「新しい日常」の一つとして新しい鉄道風景が誕生している。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新型コロナウイルスによる非日常の期間が長くなってきて気分がどんよりとしている。

♪ 夜明けの来ない夜は悪いさ

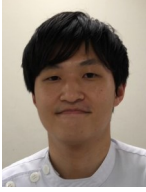
ではじまる松田聖子の＜瑠璃色の地球＞がコロナ禍の閉塞した気分を勇気づけてくれる歌としてラジオのリクエスト番組でよくかけられるようになっている。

JR九州のホームページに「その日まで、ともにがんばろう」プロジェクトのコーナーが設けられ動画が公開されている。これもコロナ禍の閉塞した気分を勇気づけてくれる。

新型コロナウイルスは、日常生活が如何に大事なものであるのかを教えてくれている。

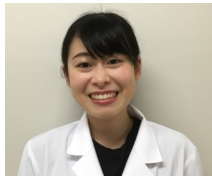
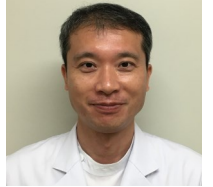


新人紹介



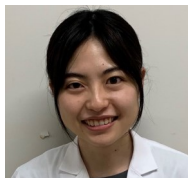
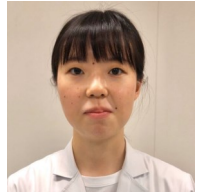
昨年7月より検査部で勤務させていただいている市成隼人と申します。以前は佐賀の病院で勤務をしており病理担当でした。現在は血液・凝固部門に所属しており、部署の方々のご指導のおかげで、なんとか日々を過ごせております。一日でも早く貢献できるように頑張っていきます。よろしく願いいたします。ご飯を食べることと体を動かすことが好きなので、おいしいご飯屋さんやスポーツのお誘い歓迎です。

2019年10月より検査部の副臨床検査技師長として再入職しました森大輔と申します。以前は、2016年10月末まで別府病院検査室の主任臨床検査技師として勤務し、翌月11月よりマレーシア国立サバ大学の医学健康科学部のSenior Lecturer(上級講師)として約3年間勤務(留学)いたしました。サバ大学は東マレーシア(ボルネオ島)の東側のサバ州に位置し、そこは自然豊かで世界でも有数の生物多様性を有する地域です。そこで、私はサバ州における病原微生物(主にウイルス)の分子疫学調査の実施と大学院生への研究指導を行ってまいりました。久しぶりの臨床復帰で戸惑いや不安もありましたが、検査部の皆さんのお陰でようやく以前の勤を取り戻すことができました。これからは、医療技術部の発展のためにも貢献していく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。



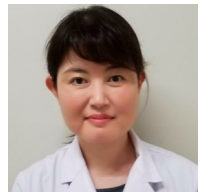
4月から検査部で勤務させていただいております、池之迫美咲と申します。慣れないことばかりで日々ご迷惑おかけしておりますが、早く先輩方のような技師になれるように精一杯頑張ります。好きなことは中学からしているテニス、サイクリング、食べることです。これからよろしく願い致します。

今年の4月から検査部で勤務させていただいております岡本真奈と申します。入職したばかりで、毎日先輩方からたくさんのご指導をいただいております。はやく検査部の一戦力になれるよう頑張ります。趣味は音楽鑑賞です。今はコロナのためライブやフェスに行けなくなり、とても悔しい思いをしています。おすすめのアーティスト・バンド等教えてくださいと嬉しいです。どうぞよろしく願いいたします。



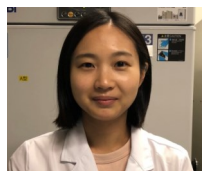
4月から入職致しました後藤桃子と申します。まだまだ慣れないことばかりでご迷惑をおかけしていると思いますが、毎日が大変勉強になっています。一日も早く検査部の力になれるよう頑張ります。学生時代は吹奏楽部で、サクソを吹いていました。機会があればまた始めたいと思っています。

4月より検査部に勤務しております埜田 直美(たおだ なおみ)と申します。よろしく願いいたします。チームの一員として皆さんと親しみ、患者さんに役立つ仕事ができるよう、頑張っていきたいと思っております。スヌーピーが好きで色々と集めています。また、美味しいものを食べ歩くことが好きなので、皆さんと一緒できる機会があれば嬉しいです。



4月より病理診断科・病理部でお世話になっております、遠峰由希恵と申します。趣味は、旅行で特に観光列車、駅スタンプ集め、神社仏閣巡りが好きです。前職は技師学校にて教員をしておりましたが、この度、臨床検査技師として初めての勤務で、皆様にご心配・ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思っておりますが、日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

4月より検査部に入職致しました、濱崎朱加と申します。例年とは違った状況での入職となり不安もありましたが、皆さまのご指導のおかげで充実した日々を過ごさせていただいております。大学時代はサークルでバンドをしていました。音楽や美味しいものの話など、気軽に話しかけていただけたら嬉しいです。毎日が勉強の日々で、慣れないことも多いですが、少しでも早く検査部に貢献できるよう努めてまいります。よろしく願いいたします。



ウイルス・細菌核酸多項目同時検出院内検査開始について

令和2年4月1日より「ウイルス・細菌核酸多項目同時検出」の院内検査を開始致しました。呼吸器検体を用いて、マルチプレックスPCRにより右表の項目が同時測定可能です。

保険点数算定には条件がありますので、オーダーの際はグローバル感染症センターに相談して、許可を得た上で依頼してください。専用依頼書をご記入の上、検体とともに細菌検査室へご提出ください。

測定項目	
<ウイルス>	<細菌>
Adenovirus	<i>Bordetella pertussis</i>
Coronavirus 229E	<i>Chlamydomphila pneumoniae</i>
Coronavirus HKU1	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
Coronavirus NL63	
Coronavirus OC43	
Human Metapneumovirus	
Human Rhinovirus/Enterovirus	
Influenza A	
Influenza B	
Parainfluenza Virus 1	
Parainfluenza Virus 2	
Parainfluenza Virus 3	
Parainfluenza Virus 4	
Respiratory Syncytial Virus	

問い合わせ先：細菌検査室（5757）



編集後記

福岡県でも緊急事態宣言が発令され、多くの人リモートでの出勤、学生は遠隔講義になるなど、人との交わり(飲み会)が激減いたしました。検査部は日常業務がありますので毎日出勤し検査業務に励んでいます。このようなコロナ禍事態(ピンチ)をチャンスに変えることが必要かと考えさせられました。オンラインによる遠隔講義はうまく使えば学生の学習効率は上がるのかなと認識しました。周りの颜色を伺うことなく議論できるのもいいものです。また、種々の会議、出張の会議等がオンラインでも十分に機能することが解り、今まで無駄な会議、出張が如何に多かったのかと感じました(もちろんFace to Faceの会談は必要です)。今後は種々の形態での会議など新しい生活様式を模索していくことが必要だと思います。今後も3密(closed spaced, crowded placed, close-contact setting : 3C)を避けて頑張りましょう。因みに、幼年期の3種の神器といえば(Color television・Cooler・Car)、今後の検査は新3C(Communication, Collaboration, Corporation)で Control Corona bruise with Chance(コロナ禍をチャンスに変えよう)。

(内海健)

